

全酪連会報 9

2022 SEP No.684



酪農とのかけはし／
富澤 雄二さん
(株式会社ヘルシーミルク)

第73年度(令和4年度)
通常総会開催される(詳細報告)

第50回 全国酪農青年女性
酪農発表大会②

日本酪農見て歩紀／
農事組合法人高塚酪農組合
(熊本県人吉市)

購買生産指導部だより／
DMSシステム 令和3年集計結果

酪農トピックス／
全国農協乳業協会
「令和4年度製造実務者向け
オンライン研修会」の開催(酪農部) ほか

酪政連活動報告

第50回 全国酪農青年女性酪農発表大会
の動画を **YouTube配信**しています！
➡ <https://youtu.be/bm7ltnp8sfs>



全国酪農業協同組合連合会

酪農との かけはし



第39回 株式会社ヘルシーミルク
代表取締役 富澤 雄二さん

地域の異業種と連携し 牛乳消費拡大を 目指しています

代表取締役 富澤 雄二さん

【略 歴】

- ・1996年 前橋商業高等学校卒業
- ・2000年 家業を継ぐ
- ・2005年 地域見守り活動開始
- ・2019年 消費拡大普及活動開始

今回ご紹介するのは、群馬県前橋市で牛乳・乳製品の宅配、卸売りを行っている牛乳販売店のヘルシーミルクです。ヘルシーミルクは1960年創業で、2代目の社長である富澤雄二さんにお話を伺いました。

富澤さんの日常は朝3時から個人宅への配達から始まります。6時30分頃帰宅し、次は保育園や病院などへの配達の準備を行います。実際の配送は雇用している1名の従業員が行います。配送が終わると牛乳の発注や生産などの事務処理、新規顧客獲得のための営業で地域を巡回しています。お客さんからの紹介や営業先からの受注で事業を拡大してきました。

「当店の顧客に保育園や幼稚園があり、そこで聞かれた「牛乳はどのように生産されているの？」との質問に答えられず、牛乳の生産についてもっと知りたくなりました。顧客の保育園では、魚を卸されている魚屋さんが実際に魚をさばく実演を行っていたこともあり、とても刺激を受けました。」とのこと。「以来、数年間、乳業メーカーが主催する食育イベントに参加したり、少年サッカー大会等の出前イベントにも積極的に参加し、教育ファームに使用されているパネルや紙芝居を使って消費拡大の普及活動や赤城酪連の須藤牧場との交流を通じて牛乳の生産、流通について勉強しました。」

「でも、酪農家は後継者不足と聞きました。牛乳販売店でも同年代の方



▲ ヘルシーミルク富澤雄二社長
(MOOCAFEの添付入り口で)

が少なく、今後同業者がいなくなるのではないかと不安があります。牛乳を生産する人（生産者）、処理加工する人（乳業メーカー）、製品を販売する人（販売店）のいずれが欠けても業界全体が困ることになるでしょう」と先行きを案じています。

それらのことがきっかけとなり、「酪農に対する理解醸成、牛乳・乳製品消費拡大の普及活動」が必要と考え、須藤牧場の牧場主である須藤晃さんと思案していたところ、群馬県前橋市でフリーアナウンサーや司会または料理研究家として活躍している青柳美保さんから、自ら社長を務めるカフェ『MOOCAFE』でイベント開催をしてみても、との提案がありました。『MOOCAFE』では、上州名物「焼きまんじゅう」の味を忠実に再現したお菓子「焼きまんじゅうマフィン」が人気で、このお菓子にはバターや牛乳がたっぷり使用されており、群馬県の新しいお土産として注目されています。

3人の他に地域在住の雑貨作家、



▲ 地元在住の雑貨作家さんの作品の牛グッズの販売も行われました



▲ 乳製品展示コーナー
須藤牧場で作ったチーズの展示販売も行われました



▲ 焼きまんじゅうマフィン



▲ ぬり絵コンテストも行われました！



▲ 富澤社長とMOOCAFE店舗スタッフの方
(店舗内にて)



◀ イベント開催中に、群馬県酪農青年女性会議連絡協議会(赤城酪連)を通じて提供されたミルクを渡すことができました



▲ コラボ企画の案内チラシ

全国の酪農家に一言！

毎日休まず大変な思いをされて牛乳を生産して戴いている酪農家の皆さんには日々感謝しています。地元群馬で生産された新鮮で美味しい牛乳を1軒でも多くの家庭、一人でも多くの消費者に届けていきます。



▲ イベントで人気の模擬牛

書家も加わり須藤牧場&ヘルシーミルク&MOOCAFEのコラボイベントとして、模擬牛での乳しぼり体験やぬり絵コンテスト、須藤牧場が販売を開始したモツアレチーズの展示販売等を、今年の6月に3週間にわたり行いました。

連日多くのお客さんでにぎわった会場では乳しぼり体験が大人気で、これを目当てに訪問されたお客さんもいたほどの大盛況でした。また理解醸成のために配布したミルクも懐かしい、牛乳をたくさん飲める！など好評をいただきました。

富澤さんは、「今回の企画で地元の事業者による地域連携もあり、牛乳を生産する人、処理された製品を販売する人が一緒に活動することの大切さが理解できました。今後も、生乳を生産する方々との交流を大切にして、コラボイベントを行っていきたい」と話していました。

最後に、今回お忙しい中、取材を快く引き受けて下さいましたヘルシーミルク富澤代表取締役に深く御礼申し上げます。

須藤牧場、ヘルシーミルク、MOOCAFEが酪農業界だけでなく地域の発展を共に目指しイベントを開催する姿に感銘を受けました。異業種間での繋がりが広がり、酪農の厳しい状況や支えている人の多さに地域の方々の更なる理解が深まり、地域の牛乳消費拡大に希望を感じました。また同様のイベントを行う際は全力でサポートさせていただきます。

第73年度 通常総会

全国酪農業協同組合連合会

第73年度(令和4年度)

通常総会開催される

詳細報告

本会は、7月28日(木)フォレストテラス明治神宮(東京都渋谷区)において、第73年度通常総会を開催し、令和3年度の事業実績、剰余金処分案、令和4年度の事業計画案の承認を得るとともに、役員の新選を諮りました。



▲ 限部洋代表理事会長

午後1時、定刻開始となった総会の冒頭、挨拶に立った限部洋代表理事会長は、会員並びに来賓各位の参集に対し謝意を述べたあと、酪農を取り巻く情勢について、

「過去最大とも言われる難局にあり、新型コロナウイルスの感染拡大も第7波に突入し収束の見通しが立たない。業界をあげて生乳生産基盤の維持・拡大に取り組んでいるが、牛乳消費は大きく落ち込み、急激な乳製品需要の緩和をもたらし、乳製品、特に脱脂粉乳の在庫は過去最高の水準に達した。先の年末年始以降、給食が停止となる期間を中心

に、処理不可能乳の発生が危惧されたが、酪農業界の懸命な努力や各方面での消費拡大運動等により、この危機を乗り切ることができた。しかし、2月以降のロシアによるウクライナ侵攻や円安により、飼料、肥料、燃料などあらゆる生産資材の価格が急激に上昇し、酪農家の経営はかつてない窮地に陥っており、11月から期中10円の乳価値上げとなったが、生乳生産コストの上昇を補うには不十分であり、値上げに伴う消費減退が危惧される。そうした中で、乳価の不足部分については国からの支援が必要であり、今後、生・処・

販や国としっかり連携し対応に挑んでいかなければならない。農水省と知恵を出し合いながら取り組んでいきたい。また、国がついているので私どもは安心している。全酪連としてはしっかり酪農家に寄り添い、日本酪農政治連盟と連携して要請活動を展開したい。」と述べました。

続いて、会場に集

まった酪農組織のトップの方々に
対して、「厳しい中ではあるが、私
たちが暗い話をするのが皆が暗く
なってしまう。これまで何回も難
局を乗り越えてきた。必ず朝は来
る」と話していったほしい。」と、
リーダーシップの発揮を呼びかけ
ました。

次に、令和3年度の本会の事業実
績について、税引前当期利益で約
7億2千6百万円と、前年実績には
及ばないものの、計画は上回る結果
となったことに、会員の皆様に感謝
の意を述べました。また剰余金処
分として、内部留保に必要な積立
を行った上で、会員の皆様に対し、
1%の出資配当、t当たり300円
の事業分量配当を実施することを説
明いたしました。

そして、「全酪連は酪農の現場が
苦境にある中において、令和3年度
に策定した『全酪連将来ビジョン』
における基本姿勢として『持続的な
酪農生産基盤の構築』を掲げてお
り、その目指す未来は、酪農家の食
卓を笑顔で満たすこととしている。
この将来ビジョンに基づく具体策と
して、令和4年度事業計画を設定し
ており、この計画を着実に実行に移

し、引き続き、現場の酪農家に寄り
添う姿勢を明確にしつつ、我が国の
酪農が直面する様々な課題に対応し
ていく。」とし、最後に、「会員・酪
農家の皆様には、日頃から多大なご
理解とご支援をいただいていること
に、改めて深く感謝するとともに、
引き続き、ご協力を賜りますようお願い
したい。」として開会の挨拶を
締めくくりました。

本総会には来賓として、農林水産
省畜産局・渡邊洋一畜産局長、農林
中央金庫・岩曾聡常務執行役員をは
じめとして、一般社団法人全国酪農
協会等関係団体からご臨席をいただ
きました。

農林水産省畜産局の
渡邊局長は来賓挨拶
で、「我が国の酪農を
めぐる情勢について、
現下の物価高騰や円安
の進展、ロシアによる
ウクライナ侵攻等の影
響により、輸入穀物や
燃料の調達コストが上
昇しており、関連産業
においても、その影響
を強く受けている。政
府としての当面の対応



▲ 農林水産省畜産局 渡邊局長

として、4月28日に『原油価格・物
価高騰等総合緊急対策』を決定し、
酪農関係については、①配合飼料価
格安定制度における異常補てん基金
の積増②粗飼料の広域流通の確保③
金融支援対策の充実等の支援を講じ
たところであり、中長期的には、食
料安全保障の観点からも、輸入飼料
からの過度な依存から脱却し、国内
の飼料生産基盤に立脚した、足腰の
強い生産に転換することが重要であ
ると考える。』と述べられました。

さらに、今年は例年より梅雨明け
が早く気温の上昇とともに飲用需要
が好調に推移し始め、また訪日観光

客の受け入れ再開によりインバウン
ド需要にも期待が高まるとし、「農
林水産省としては、引き続き、全国
の生産者団体と乳業メーカーが協調
して行う乳製品在庫低減の取組や、
6月から取り組んでいる『牛乳でス
マイルプロジェクト』等により、牛
乳乳製品の消費拡大の取組を後押し
するとともに、輸出拡大に向けた新
たな市場開拓を支援するなど、関係
団体の皆様と連携を密にしながら、
この難局を乗り越えるために、全力
で取り組んでいきたい。」と述べて
挨拶を締めくくられました。

次に、農林中央金庫の岩曾常務執
行役員は、来賓挨拶にて、総会開催
へのお祝いの言葉とともに、農林中
央金庫の業務への理解・協力にお礼
の言葉を述べられた後、酪農を取り
巻く環境について、次のように述べ
られました。

「2021年度における国内全体
での生乳生産量は北海道での増加
分が大きく前年度比3.7%増と昨
年度に続き増加となり、さらに都
府県においても前年対比1.8%増
と昨年度に続き増加となった。し
かしながら、ロシアウクライナ情
勢の悪化、円安の影響等により世



▲ 農林中央金庫 岩曾常務執行役員

界的な物流網の混乱や資源価格の高騰を招いており先行きは依然不透明な状況が続いており、飼料価格についても2021年度当初より高騰し続けているなど、酪農経営を取り巻く環境はとても厳しいと認識をしている。」

続けて本会の経営数値面について、「中期事業計画の初年度である2021年度において計画を上回る水準の業績をあげていることに加え、飼料高騰対策として直営製品1t当たり2,000円の特別対策費を会員の皆様に還元を実施されたと伺っている。これも会員役職員の皆

様の努力ならびに隈部会長のすばらしいリーダーシップがあつてこそその賜物であり、深く敬意を表したい。」と述べられました。

さらに、「農林中央金庫としては、系統金融機関として酪農協系統の振興に向けた金融対応はもちろんのこと、全面的に貴連合会の取り組みをご支援させていただく所存である。」と、述べられ、挨拶を締めくくられました。

その後、木本 栄一氏(埼玉酪農協同組合 代表理事組合長)を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認されました。

理事の補選も行い、下西和夫(標津町農業協同組合 代表理事組合長)、高橋秀行(千葉県酪農農業協同組合連合会 代表理事会長)両氏が新たな理事として選任されました。

最後に、木本議長が、「酪農業界はかつてない危機的状況にある。しかしながら暗礁に乗り上げたわけではな

い。それぞれの指定団体の方々の努力により一定の成果が得られ、また、国の支援があつてこそだが、配合飼料に対する異常補てんを含めて安心できる情報も流れた。酪政連としてはさらに国産牛乳100%を継続するためには必死に要請に回っている。こうした活動の対応が出来ているのは、先輩方が汗水流して構築してくれた酪農組織あつてこそである。今後この難局を乗り越えた時に、こうした酪農家の抛り所である『酪農家による酪農家の組織』をどういう形で残すのか、この方向性を出すことは今、役職を担う我々にとつてのハードルであると思う。結論は出せなくても、次の世代に渡す酪農家の意見が反映できるように『酪農の受け皿』の1つの方針は、我々が決めたいと思う。その中心的な役割を、専門農協のまとめ役である全酪連がぜひリーダーシップを発揮して、ビジョンの方向性を出してくれることを切

望する。」と強く述べられ、さらに感謝の意を表した後、議事を終了しました。

議事終了後、小前副会長理事が閉会の挨拶に立ち、「今日はこの明治神宮にて、厳しい酪農情勢が一刻も早く改善に向かうようにと祈ってきた。全酪連としても隈部会長の信念でもある『酪農家に寄り添い、できることをしっかりとやる。』これを共通認識として取り組んでいきたいと考えている。皆様方には引き続きご協力をお願いしたい。」と締めくくり、第73年度通常総会は終了しました。

い。それぞれの指定団体の方々の努力により一定の成果が得られ、また、国の支援があつてこそだが、配合飼料に対する異常補てんを含めて安心できる情報も流れた。酪政連としてはさらに国産牛乳100%を継続するためには必死に要請に回っている。こうした活動の対応が出来ているのは、先輩方が汗水流して構築してくれた酪農組織あつてこそである。今後この難局を乗り越えた時に、こうした酪農家の抛り所である『酪農家による酪農家の組織』をどういう形で残すのか、この方向性を出すことは今、役職を担う我々にとつてのハードルであると思う。結論は出せなくても、次の世代に渡す酪農家の意見が反映できるように『酪農の受け皿』の1つの方針は、我々が決めたいと思う。その中心的な役割を、専門農協のまとめ役である全酪連がぜひリーダーシップを発揮して、ビジョンの方向性を出してくれることを切



▲ 木本 栄一氏(埼玉酪農協同組合 代表理事組合長)

第50回

全国酪農青年女性酪農発表大会②

酪農意見・体験発表の部

藤田 幸子さん(関甲信会議)が最優秀賞を受賞!!

隈部 雅子さん(九州会議)が審査委員長特別賞を受賞!!

先月号に続き今月号では7月14日(木)～15日(金)に東京都江東区『ホテルイースト21東京』にて開催された第50回全国酪農青年女性酪農発表大会の酪農意見・体験発表の部を、審査講評を中心に紹介します。

酪農意見・体験発表の部 審査講評



審査委員長

隈本まさ子氏

6人の審査員が悩み抜いて決めた結果を、代表して発表いたします。

コロナウイルス感染者が再び急増しており、21世紀の出来事とは思えないロシアによる侵略戦争。ウクライナでは多くの方々が亡くなり、すでに5万頭を超える牛たちも犠牲になっているとのこと。燃料も飼

料も肥料も足りなくなつて高騰するなど、心配なことは色々あります。国内では生乳が余つてしまう心配も続きます。でも、牛は消費に合わせて都合よく乳を出したり止めたりできるわけではないことや、酪農家さんの色々な苦勞は、関係する皆様のご尽力によつて都市部にも理解が広がり、食料安全保障や食料自給率の低さを心配し、日本の酪農家さんや農家さんを大切にしたい、応援したい、という声が高まっています。でも、酪農家さんの減少は続いています。

このような中で今年の発表は、「酪農ってこんなにいいよ!」「酪農はとても大変だけどやっぱり楽しいよ」というメッセージに溢れて

おり、どれももつと、ここだけではなく、日本中の人々に、酪農家さんだけでなく多くの方々に聞いていただきたい、とても素晴らしい発表ばかりでした。6名の方々の発表を振り返りたいと思います。



私が選んだ道
～酪農家に嫁いで22年～
関東甲信越酪農青年女性会議
藤田幸子氏

藤田幸子さんは、非農家出身で長距離トラックの運転手をしていてご主人と出会い、お義父様の怪我で搾乳を担い、ご主人の大怪我による廃業の危機を、搾乳ロボット

ト導入という大決断で乗り越えました。一番背中を押してくれたのは、娘さんの即答「牛がいなくなるのはいやだ!」だったようです。

思い切つて導入した搾乳ロボットで軽減された労働時間を自給飼料生産に振り向け、畑作農家と連携しジャガイモの裏作にソルゴーを栽培したり、ほとんどの飼料畑でトウモロコシとイタリアン、麦の2毛作を行い土地の有効活用を実現され、さらに拡大し「自給飼料でゆとりのある酪農」を目指しています。

納豆の給与を試したり、小学生との交流、婦人部での積極的な活動など、地域との繋がりも大切に、より広がっています。そして、とても自然

なかたちでお嬢さんが就農されたこととは、ご同慶の至りです。

得意分野を生かしたご夫妻の理想的な役割分担！搾乳ロボットを導入した家族経営の理想像ともいえる藤田牧場が、さらに発展し、地域や組合へ良い影響をどんどん広げてくざれば、と期待しています。



人と牛に育まれ “感謝”を次の世代へ

西日本酪農青年女性会議
山尾稔之氏

山尾稔之さんはサラリーマン家庭出身で、自動車工場の製造ラインでロボットのよう働いていたところに「太陽の下で体を動かす仕事があったい！」と強く思うようになり、酪農という未知の世界に魅力を感じて農業者大学校に入学し、実習先で地域の牧場に出会い、これを目指すことになりました。キャンピングの大きなトラクターにあこがれて酪農にのめりこみ、5年間の北海道研修の後、広島に戻りさらに研修を重ね、酪農

ヘルパーを経て、後の山尾牧場となる牧場に約10年間勤務し、当時酪農ヘルパーだった理想の女性と結婚もできて、8年前に牧場を買い取り、晴れて夢をかなえます。

良い人ばかりに巡り合え「運がいい」と本人はいいますが、22年間の努力と苦労・忍耐はさすがです。今は本格的な耕畜連携の推進役として、また、組合活動にも役員として積極的に参加され、トラクターに乗る楽しさ、趣味のクラシック音楽を聴きながら搾乳ができる喜びや幸せ、酪農の魅力子どもたちや消費者に伝える交流にも力を入れていきます。牛たちも幸せそうですし、目標としている林間放牧・山地酪農が実現できれば最高です。目指している経営スタイル『助け合い励まし合う家族経営』は、もう実現できていると思いますし、新たな夢『お子さんたちが地域の農業を盛り上げる存在として育つほしい』も叶いそうです。これからさらに、仲間のために、地域のために、次世代のために、活躍していただきたいし「やっぱり酪農は楽しい」これをどんどん発信していただきたいです。



私が後継者となり 実感したこと

中部酪農青年女性会議
小林拓也氏

小林拓也さんは、酪農家である実家の仕事が好きだったそうですが、企業勤めを突然やめて小林牧場の3代目としてUターンしました。地域の酪農家が廃業していく中、見事に生き残ったご両親の牧場に勝算ありと判断しての決断でした。たった3か月の大手牧場の研修で、ラッキーなことにとっても良い女性と巡り合い、結婚大作戦に成功し、後継者として、夫として、父親として成長し、どんどん前に進んでいく姿に、両親も安心して手を離される日も遠くないのではないかと思います。企業に勤めたことで得られたことを活かした3つの将来の展望の実現に向けた牧場経営、また、新しくできた地元酪農協の青年部でのこれからの活躍も期待されます。

が、かつての職場の先輩からの「男はさつさと結婚した方が良い」とか「男は可能性があればどこまでも頑張っていける」という言葉は、とても貴重なメッセージだと思います。小林さんには、「早く結婚したほうがいいよ！」という勧め、そして「結婚のためには1年間も深夜2時間車を走らせ続けるぐらいの努力も必要なんだぞ！」ということ、それから「子どもの頃嫌いだっただ酪農もやってみると案外いいよ！」とUターンを勧めていただくと良いかも知れません。たくさんの方のみなさんに聞いていただきたいご発表でした。



3-LIFE活動 (支える・備える・繋がり合える) ～SDGsを取り入れて～

九州酪農青年女性会議
隈部雅子氏

隈部雅子さんは、優れた乳質の生乳を生産している牧場の仕事をこなしながら、地震や豪雨災害をきっかけに牧場の外へ出て活発に活動し、指導的立場について、様々な取り組みを進めています。『3-LIFE』活動を考案し、

支える…チェックシート作成
備える…防災食レシピの考案
繋がり合える…牛乳推進活動子ど

も食堂

を、異業種の方々と行政も巻き込み、男性の意見もしっかり取り入れて全部見事に実践されており、それだけで十分素晴らしいことですが、さらにSDGsの観点から活動の目標を見直し、自己評価し、次の課題を明確にしています。

チェックシートも防災レシピも、全国への展開を視野に入れていますし、かつては評価が分かれたL1牛乳ですが、これを非常食に、という活動も特筆に値します。チェックシートは「はつらつとした楽しいチェックシートにするために、熊本弁にした。」とのことで、地元の人たちになじみやすい工夫があふれています。どうか貴重な活動を広げてください。



岩手山の麓で再出発 牛とともに豊かに生きる

東北酪農青年女性会議
中居広哲氏

中居広哲さんは、非農家出身で介

護の仕事に就いており、結婚し3児の父となった30歳を過ぎたところから転職を考えるようになり、農業関連の求人アプリで後継者候補の求人

を見つけた家族全員で見学。緑輝く壮大な牧草畑と景色に感動し、牛の大きさに驚き、農場主のお話も聞き、牛とともに歩む、酪農家として生きる決心をします。家族も好意的に受け止め滝沢市へ移住。夫婦そろってその牧場の従業員として研修し、2年後に第三者継承を受け名称をかえた中居農場で新たな酪農生活を始めることができました。家族みんなの努力はもちろんですが、前職と同等の研修期間中の給料、無償の住宅の提供など、農場主をはじめ、地元の酪農組合、普及員、地域の皆さんの手厚いサポートがありました。地域ぐるみで受け入れる体制のすべてがうまくいった第三者継承のモデルケースで、後継者を受け入れる側の参考にもなっていたきたい貴重な成功例です。

「家族とみんなで働ければ」と思ったからこの世界に入った、結果的にはこの選択は正解。」という中居さんが、自由度を手にした経営者として、将来の夢である牛の放牧も実現すること、そして中居さんの家族

が、さらに地域や、日本の農業をもっとにぎやかにしてくれることを期待しています。



デイリーウーマンズ 結成から10年を迎えて

北海道酪農青年女性会議
佐藤幸枝氏

佐藤幸枝さんは、25年もの酪農経験を持ち、新人酪農女性たちのための活動を始めました。10年前のことです。5名だけという少人数にこだわりの、組織に所属しない自主自立グループで、キャッチフレーズ「女性の目線で酪農技術の習得を」のとおり、農業普及員、獣医師、販売技術者、税理士など多くの人たちの協力を得て、幅広く、先進的な勉強をして海外視察も実現し、そこで得た新たな技術をすぐに実践し、成果を上げていくところが大変すばらしく、

そのことは、「北海道女性チャレンジ表彰」で最優秀賞を受賞されたことでもあきらかです。デイリーウーマンズは佐藤さんがいたからこそ10年間続き、新人だったメンバーは立派な酪農女性に成長しました。

今ほどの分野にいてもプラス思考で居続けることが難しい時代です。皆さんの未来予想図である『魔法の夢ノート』は魅力的なツールです。し、グループのプラス思考づくりのノウハウが、グループの酪農技術習得・実践の優れたノウハウとともにグループの外にも広がっていくことを期待します。

活動の今後の具体的な計画もあり、計画は次々に湧き出ていきそうに楽しみです。すばらしい行動力・実行力で、次の世代にしっかりと引き継いで牧場を発展させ、網走を発展させていきたいです。

さて、6名のご発表は、本当にどれももともと幅広い方々に聞いていただきたい、すばらしい発表でした。私たち審査員は、毎回難しい選択を強いられますが、今年はいつ以上に難しかったです。

その中で、最優秀賞は審査員全員で悩み抜いた結果、普通なら廃業してしまってもおかしくない大きな危機を大英断によって乗り越え、古い性別役割分担意識にとらわれない、男女共同参画時代にふさわしい理想

第50回
全国酪農青年女性
酪農発表大会の動画を
YouTube配信
しています!



→ <https://youtu.be/bm7ltnp8sfs>

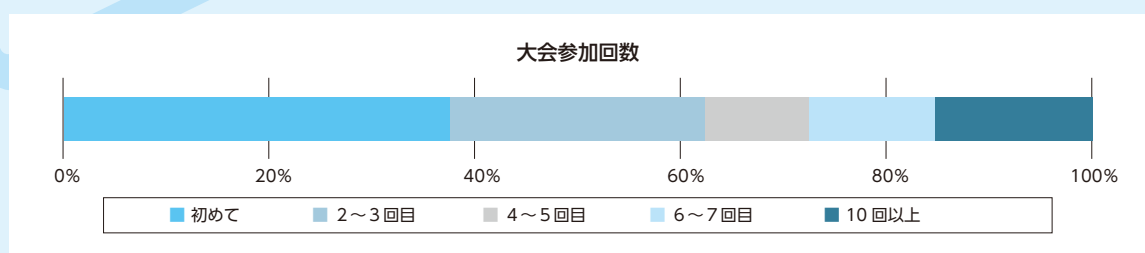
的な家族経営を築き上げ、次世代へ、地域へ、良い影響を広げておられる藤田幸子さんに決定いたしました。そして、審査委員長特別賞は、酪農仲間や、地域の方々とすばらしい活動を実践されていて、さらにもっと活動を広めようとしており、酪農の理解者・応援団を増やすことと、牛乳の消費拡大にとっても大きな期待が持てる隈部雅子さんに決定いたしました。

「毎日楽しく明るくいこばい!」とか、地元の人になじみやすい工夫があふれるチェックシートなどが、この大会をきっかけに全国に広がっていくことを審査員一同、とても期待しています。

本当に、「発表者皆様に差し上げたかった。」が審査員一同の気持ちです。どうか、また、その後の様子をご紹介ください。審査員一同、心から応援し、お待ちしております。

参加者アンケート 集計

アンケートにお答えいただいた方の中では、初めて参加されたという方が最も多かった(37.5%)ですが、6回以上という方も27.5%おり、10回以上参加しているという方は15%いらっしゃいました。



大会の構成や発表内容には、ほとんどの方が『充実している』、『参考になる』とお答えいただき、『どの発表者の内容も素晴らしく、日本酪農の未来は明るいなと元気をもらった。(20代女性)』、『いろいろな酪農の意見を知ることができてよかった。自分の人生もしっかり目標をたて生活していきたいと思った。(40代女性)』、『若い人の話が聞けて良かった(50代女性)』とのご意見が多かったですが、『リモートの接続がもう少し良ければ(50代女性)』とのご意見もありました。リモート発表者にはご迷惑をおかけしましたが、素人の集団でしたのでご容赦ください<(_ _)>。

大会に参加し『全国から酪農家が一堂に会し話ができる素晴らしい時間でした。この会がいつまでも続きますように。(50代女性)』、『経営発

表のために全国から酪農家が勉強をしに、そして応援をしにくる。それがこの場だと思う。(50代)』と実開催で行われることの喜びのご意見が多く、『発表者には「やってよかった」と言っていただける。ぜひ若い世代がもっと参加できるよう、参加してもらえるよう、全国に声をかけていってほしい。(20代男性)』、『会員数が少なくなるなかで皆様の声かけが大切になってくると思います。発表大会は本当に勉強になります。たくさんの方が参加していただくことが大事だと思います。(女性)』、『コロナ禍や、発表者の発掘の難しさもあり、大会の運営は非常に大変なことと思います。できるだけ良い形で大会が続けばと思います。(40代男性)』など、多くのご意見をいただきました。

皆様、ありがとうございました。来年は北海道でお会いしましょう。

日本酪農 見て歩紀

No. 351

農事組合法人
高塚酪農組合
熊本県人吉市

全国酪友の皆様、
初めまして私が中村俊介です



▲ 全国酪青女新委員長の中村俊介さん



▲ 全国酪青女役員交代、新委員長の俊介さん(中央)、小森委員長(左)

今回、「日本酪農見て歩紀」のテーマは全国の酪友に向けて、中村俊介さんのご紹介です。全国酪農青年女性会議では今年7月の総会にて改選が行われ、2期4年務められた小森崇宏委員長(栃木)が退任し、新委員長に今回取材させて頂いた農事組合法人高塚酪農組合代表理事の俊介さんが就任しました。これから全国の酪友の目に留まる機会も多くなると思いますので何卒よろしくお願いします。

地域の紹介



▲ 球磨川下り

高塚酪農組合は、宮崎・鹿児島両県に隣接する熊本県南部の人吉盆地西南端に位置する人吉市にあり、人吉市は熊本市、宮崎市、鹿児島市のほぼ中心で各都市に約1時間でアクセスできる南九州の交通の要衝です。人吉盆地は、九州山地に囲まれ100年以上前に巨大な「古人吉湖」から水が引き形成されたそうで川下りやラフティングで有名な日本三急流の球磨川が流れ、

晩秋より年百日ほど朝霧が立ち込め異世界へ迷い込んだがごとの景色が広がります。

また、人吉と言えば、良質な水・米を原料とした米焼酎が名産ですが鉄道の町でもあり「SL人吉」や名刺を貼ると出世する「大畑駅」などの秘境駅も点在し鉄道ファンにはたまらない地域となっています。最近では、映画「るろうに剣心」ロケ地である国内唯一の石造り機関庫車庫や、人吉がモデルになっているアニメ「夏目友人帳」の聖地巡礼で大勢のファンが訪れています。



▲ SL人吉

牧場の沿革・概要

人吉市高塚山の麓にある高塚酪農組合が所属する球磨酪農農業協同組



▲ 牛舎全景

合（村田輝幸代表理事組合長）は熊本県酪農農業協同組合連合会（限部洋代表理事会長）の会員であり、熊本県酪農農業協同組合連合会の出荷戸数は445戸（令和3年4月1日現在）、令和3年度の生乳受託乳量は262,089tとなっています。

高塚酪農組合は、俊介さん（47歳）が経営全般を担い、隆司さん（父）、美和子さん（母、役員）、美樹さん（奥さん、役員）、従業員2名、海外研修生4名で運営しており、3人のお子さんは就職・就学しています。

▼ フリーバーン牛舎



▲ 肉用子牛の育成

昭和48年に非農家ながら酪農家を志していた隆司さんが研修先で出会った美和子さんとの結婚を機に炭焼き山だった高塚山を切り開き、放牧主体で30頭ほどの山地酪農を開始したのがはじまりです。法人化したのが当時地域では法人化している酪農家もおらず自ら情報収集・手続きを行い高塚酪農組合を設立しました。その後、山地酪農では乳量も伸

びず乳質の不安定等の問題もあり経営が厳しかったことから舍飼いに移行、俊介さんは平成11年に後継者就農し、平成24年に畑を造成してフリーバーン牛舎を新設、8頭×2列のパラレルパーラーを導入し規模拡大、平成28年に経営継承して今日に至ります。

現在、飼料は購入しており、特に地元のタバコ生産農家グループ

令和3年	30年	28年	26年	24年	平成11年	昭和48年	内容
家畜排せつ物処理装置FUNITO設置・試験改良をスタート	堆肥処理施設設置、経産牛230頭に増頭	俊介さん経営継承、経産牛212頭に増頭	フリーバーン牛舎増築、寮建設、経産牛160頭に増頭	フリーバーン牛舎新設、パラレルパーラー導入、経産牛101頭に増頭	俊介さん後継者就農、経産牛66頭	父が高塚山を開墾し山地酪農を開始、農事組合法人化、高塚酪農組合を設立、経産牛30頭	

●沿革

俊介さんは、高校卒業後に自衛隊に入隊、6年間音楽隊でドラムを担当しパレードや式典演奏以外にも訓練や任務に従事したそうです。筆者は音楽隊と酪農のギャップに驚きましたが、音楽隊を希望する受験者はから稲WCSを年間6000ロール購入。また、繁殖管理は多頭化に従ってIOT技術（ユーモーション）により計画的に管理、体外受精卵を移植し熊本県家畜市場のET市場で付加価値を高めて取引しています。

中村俊介さんのご紹介

毎年多く音楽の素養が必要な狭き門であるそうです。

経営理念は、「ムリ、ムダ、ムラなく」で経営安定化を図る。

*「ムリなく」、従業員数に応じた適正規模で機械化を図り効率性を追求。

*「ムダなく」、投資の採算性を精査し作業のアウトソーシング等を実施。

*「ムラなく」、健全な環境で飼育管理し1頭当たり乳量の安定化。

地域活動にも積極的に参加して

おり、長年、JAくま青壮年部の部長などの役員を務めた功績により表彰されています。また、令和2年より、球磨酪農農業協同組合の青壮年部長に就任し、令和4年には熊本県酪農青壮年部協議会の委員長、九州酪農青年女性会議の委員長、そして考えてもいなかった全国酪農青年女性会議の委員長に推され、あれよ、あれよという間に全国の酪農活動の取りまとめを任されることとなりました。「全国、九州の活動は初めてですが、未経験をプラスに考えて変えることを恐れずに若手の酪友が積極的に参加できる活動を目指します。」と意気込みを語ってもらいました。

また、令和2年7月豪雨では球磨川流域の広範囲で氾濫決壊、橋梁流失、家屋倒壊、浸水被害が発生し多くの犠牲者が出ました。当時、消防団部長の俊介さんは、牛舎に土砂が流れ込み子牛も膝まで浸かるなか、自分の経営は顧みず従業員に任せて人命救助を優先し3日間自宅に帰らず災害対応に奔走、その後の片付けにも精力的に参加し街のために尽力しました。この時、消防団詰所は流されてしまい、現在は高塚酪農組合



▲ 間一髪！ 流されなかった消防車

事務所が仮詰所となっており、これから消火活動に出動しています（牧場に現役消防車があるのは初めて見ました…）。

最近、山形、新潟両県に「大雨特別警報」が出され、北海道・東北・北陸では酪農家の浸水や廃棄なども発生しています。俊介さんは「被災した酪友にはお見舞い申し上げます。」、シンプルですがなかなかやらないこととして、「命を守るため、日頃より避難場所やハザードマップを確認し、自分は大丈夫と考えずに

早く避難して下さい。」と話されました。

牧場の見所

高塚酪農組合の見所は、なんと
言っても日本初の家畜排せつ物処理
装置「FUNTO」の試験的導入と
改良になります。低コストで糞尿を
含む敷料を繰り返し再生し、戻し堆
肥として利用する地球環境にやさしい
サーマルリサイクルシステムで取材当
日も5月末に完成した「新システム」
のYouTube撮影

を実施しており9月
末頃にアップされま
す。「FUNTO」の
詳細は下記のURL
をチェックして下
さい。

これまで、俊介さ
んは増頭するにつれ
て増える糞尿処理に
頭を悩ませてしまし
た。耕種農家に利用
してもらっていまし
ましたが、ダンプやマ
ニ
アスプレッダーを購
入して往復1時間以
上を掛けて持込散布



クラボウHP

→ <https://www.kurabo.co.jp/eng/lp/shikiryo/>



▲ FUNTOのYouTube撮影

までして無料、経費も時間も浪費し
ていました。加えて、ノコクズの品薄
と価格高騰が重なり大きな負担とな
りました。そんな折に排水処理装置で
クラボウと付合いのあった酪農の師匠
から紹介してもらい令和3年2月に
「FUNTO」を建設しました。当初
は見込んだ処理量に届きませんでした
たが試行錯誤しながら5回ほどの改
良を経て一日の糞尿分の処理が可能
になり、今後の初期投資の低減も図
られました。併せて、高塚酪農組合

で実績を作ったことからクラスター
事業の補助対象にもなり、これから
設置するに当たってはノウハウの蓄
積により導線の効率化や専有面積の
コンパクト化が可能になっているそ
うです。

結果、散布することも無くなり、
コスト削減はもちろん牛舎内の快適
性が上がり乳房炎が減少、乳量乳質
の安定化にも一役買っています。

将来に向けて

酪農経営環境が厳しい中、球磨地
域でも廃業する酪農家が増えてく
る可能性があり、地域の生乳生産を
維持する役割を担うためにも牛舎
を増設して350頭規模にしたい
とのこと。更に先では、離農された
牛舎施設を取得して第二牧場とし
て450頭規模を目指したいとの
意気込みです。

今を転機に

取材の終わりに全国の酪友に向け
てエールをいただきました。

「厳しい経営が続いている時期で
すが我慢、我慢だけではなく、今だ
からこそ生き残るために何を変えて
いくべきか考えるときだと思いま



▲ 再生された使用済み敷料

す。」「大変なときこそ、経営を見
直す機会と捉えて対応すれば環境が
良くなった時には必ず儲かる酪農に
なります。」

最後に

全国酪青女委員長に就任し不安も
ある中、前向きな話をお聞きした取
材となりました。今後も高塚酪農組
合の益々のご発展とこれまで以上の
全国酪青女活動の隆盛を願っており
ます。

(S・T)

初乳粉末製品

GOODSTART

PREMIUM

 免疫グロブリン
70g/袋以上
 含有

初乳が足りない時、イザという時の備えに

○作業性は「**3楽**」～溶かすも楽、給与も楽、片付け作業も楽々～

何かと余裕がなく、慌ただしい子牛の分娩。溶解性に優れているグッドスタートプレミアムを使えばスムーズです。

消化・吸収・機能性に優れた各種成分を配合しました!

良質な
初乳粉末

中鎖脂肪酸

ビタミン
ミネラル

乳酸菌
ビフィズス菌

全乳粉末



全酪連の購買製品カタログ(全国版)はこちら

代用乳・配合飼料・添加物・酪農・畜産機材類 掲載

地域によって、取扱いがない製品もございます。
 詳しくは各支所へお問い合わせください。

代用乳製品

生まれた子牛は強化哺育®にお任せください!!

ホルスタイン雌子牛 **強化哺育®** 用



全酪連は2005年1月に搾乳後継雌牛のための『強化哺育®・育成体系』を発表、強化哺育®代用乳『カーフトップEX』を供給してまいりました。以来、全国各地でご利用いただき、子牛の発育と健康面における大幅な改善、初産分娩の月齢短縮や体格向上、初産乳量増加などの好結果に絶大なご支持を賜ってまいりました。全酪連・酪農技術研究所では、自家産の雌牛を対象に、哺育体系の違い(『標準体系』vs『強化哺育®』)を比較するための飼養試験を1998年より継続してまいりました。これまでの5年間のデータを哺育期・育成期・初産乳期について集積・比較した結果を要約すると、初産分娩月齢は22.3ヶ月でほぼ同一、初産分娩後体重は強化哺育®区が596.2kgで+23.7kg、初産乳期乳量は強化哺育®が9,682kgで標準より+822kgという結果でした。

和牛・F1子牛 **強化哺育®** 代用乳



強化哺育®の効果を和牛子牛やF1子牛に応用するために『カーフトップEXブラック』を開発、2007年夏より供給開始し、全国の肉用素牛の体格を大幅に改善して注目されております。肉用素牛においても、強化哺育®によって、過肥にならず、フレームサイズが大きく、飼料摂取に優れた育成管理が重要であり、全国で自動哺乳機による和牛・F1子牛強化哺育®事例が普及しつつあります。『カーフトップEXブラック』は、ホルスタインよりも生時体重の小さい和牛やF1子牛のエネルギー充足を満たすためにエネルギー濃度を上げ、更に粉末初乳を加えて便スコアの改善を考慮しています。

お問い合わせ先



全国酪農業協同組合連合会

札幌支所 011(241)0765	仙台支所 022(221)5381	名古屋支所 052(209)5611	福岡支所 092(431)8111
釧路事務所 0154(52)1232	北東北事務所 019(688)7143	大阪支所 06(6305)4196	南九州事務所 0986(62)0006
帯広事務所 0155(37)6051	東京支所 03(5931)8011	中四国事務所 0868(54)7469	
道北事務所 01654(2)2368	北関東事務所 027(226)6851	近畿事務所 0794(62)5441	
秋田支所 01537(6)1877	栃木事務所 028(689)2871	三次事務所 0824(68)2133	

DMSシステム

令和3年集計結果

1 DMSシステム参加農家が500戸となりました

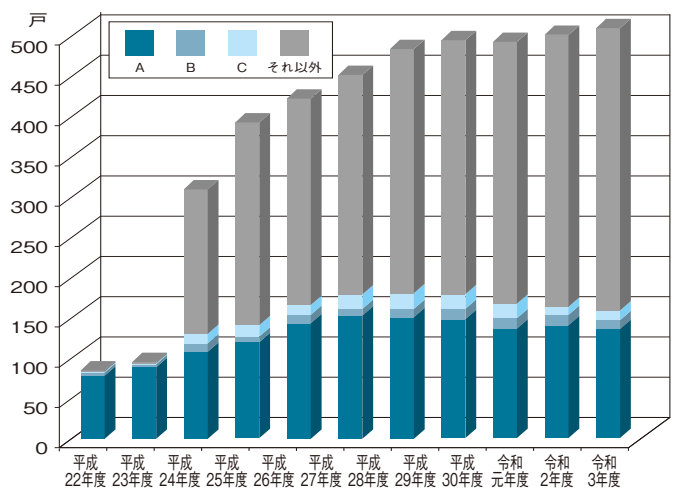
DMSシステムが運用され始めてから、今年で15年目となりました。経営に関するご相談を含むDMSシステムの参加農家の延べ戸数は、令和4年5月時点で500戸となりました(図1)。「Aプラン」は本会が紹介している会計ソフト(「e-酪農経営」および、令和3年度までは「農業経営管理SaaS」)を使い酪農家自身が入力・決算を行うプランです。今年度より、オンライン会計ソフトを刷新し、「ゼンラク酪農簿記(通称ZIRABO/ジーラボ)」の運用を開始しています。また、記帳代行や決算を税理士に依頼する「Bプラン」「Cプラン」も引き続きご利用しています。「それ以外」は、

DMSシステムのデータベースを利用した経営診断の実施や、経営相談の依頼を受けた延べ戸数を表しています。

2 酪農経営の概況

表1は、令和2年と令和3年のDMS参加農家の牛群動態、収入、支出および所得の平均値を各項目別に比較したものです。集計範囲は、青色申告を行っている個人経営主の農場と比較的家族経営に近い法人経営体11戸を含む91戸としており、令和2年、令和3年とも同一の経営体を比較しています。400頭を超える大規模な企業の経営酪農を営んでいる農場は、費用構成(特に労務費のバランス)においての比較評価が困難なため

図1 DMSシステム参加農家戸数(令和4年5月末時点)



	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
Aプラン	76	81	106	120	142	151	153	149	136	145	145	141
Bプラン	5	7	9	8	8	12	9	12	14	12	9	11
Cプラン	1	2	17	17	17	19	21	20	20	9	9	9
それ以外*	2	3	174	243	249	265	295	301	314	316	327	339
合計	84	93	306	388	416	447	478	482	484	482	490	500

* それ以外…DMSシステムのデータベースを利用した経営分析の実施や経営相談の依頼を受けた戸数

含んでおりません。これにより、集計農場の平均飼養頭数は53ないし54頭となりました。

(1) 家族所得は41,216円/頭の減少

家族所得については、令和2年に比べ令和3年では、経産牛1頭当たり41,216円の減少となりました。家族所得率も11・7%から8・7%に減少しています。この要因について、収入および経費のバランスから見ていきたいと思えます。

(2) 総収入はほぼ横ばい

収入は、平均出荷乳量減少が若干減少したこと、依然として肉用子牛相場が低調に推移したことにより微減した一方、各種生産資材への価格対策等により、雑収入は、昨年に比べ12,254円/頭の増加となりました。堆肥売上高や6次産業農場の乳製品売上高などで構成される「その他売上高」については減少が見られますが、この要因については調査中です。

以上の状況から、経産牛1頭あた

表 1 酪農経営の変化

牛群動態/主な指標	令和2年	令和3年	前年差
経産牛頭数	53	54	1
平均出荷乳量(kg/頭)	9,088	9,015	-73
更新率	26.5%	26.3%	-0.0
死廃率	9.3%	9.3%	0.0%
乳飼比	54.2%	57.4%	3.2%
家族所得率	11.7%	8.7%	-3.0%
経産牛1頭当たり(円)			
総収入	1,383,218	1,380,445	-2,773
生乳売上高	1,069,908	1,063,809	-6,099
肉用子牛売上高	143,522	139,958	-3,564
廃用牛売上高	29,914	30,252	338
その他売上高	25,216	19,514	-5,702
雑収入	114,658	126,912	12,254
総支出	1,221,376	1,259,819	38,443
雇人費	45,176	43,791	-1,385
飼料費	582,024	610,960	28,936
診療衛生費	33,415	34,593	1,178
動力光熱費	53,296	57,090	3,794
共済掛金	32,163	35,497	3,334
修繕費	43,095	44,822	1,727
支払利息	1,940	2,704	764
減価償却費	176,869	183,563	6,694
その他経費	253,398	246,794	-6,604
家族所得	161,842	120,626	-41,216
フリーキャッシュ	287,736	255,304	-32,432
借入金償還額	64,982	67,758	2,776
キャッシュ残	222,754	187,546	-35,208

※集計農場は、DMS利用者のうち法人経営体11戸を含む令和2年、3年とも同一の91戸。
 ※フリーキャッシュ＝家族所得＋減価償却費－育成振替高＋廃牛売却原価である。
 ※その他経費は、種苗費・肥料費・農具費・作業衣料費・地代賃借料・諸材料費・荷造運賃手数料・廃牛売却原価等。
 ※家族所得＝総収入－総支出(総支出に専従者給与は含まない。)

りの総収入については、昨年度に比べほぼ横ばいとなっています。

(3) 総支出は、38,443円／頭の増加

一方で、総支出は、経産牛1頭当たり38,443円増加する結果となりました。実際にキャッシュの支出を伴う費用において、影響が特に大きいのは、飼料費の上昇です。

令和3年は、飼料費を始めとする生産資材費が大幅に増加した年です。

た。乳牛用配合飼料価格は、令和2年後半から顕著に上昇し始め、その前の期間と比べると令和3年の年末まででおおよそ15円/kg上昇し、その後さらに上昇が続いています。

また輸入粗飼料価格も、夏以降上昇が顕著となり、2021年始めと年末を比較すると、約30%の価格上昇がみられ、特に都府県の酪農経営を圧迫している要因の一つと言えます。

しかし、いずれも令和3年中に段階的に上昇してきたこと、また、配合飼料においては、会計期間内では平均8,000円/t以上の安定基金補填がなされていることを考慮すると、2021年の決算では、購入飼料価格高騰の影響全てが反映しているとは言えません。そのような状況にあつてなお、経産牛1頭当たりの飼料費は約28,936円と大きく増加しています。動力光熱費等、その他の生産資材費においても増加している科目が多いことが分かります。

(4) 「酪農フリーキャッシュ」は32,432円の減少

以上に述べてきたように、減収の原因が主に現金の支出を伴う生産費用の増加であることから、減価償却費や育成仮勘定といった現金の支出を伴わない科目の影響を除いた「フリーキャッシュ」においても、32,432円／頭の減少となりました。これは、昨年のフリーキャッシュ額の11・3%に上り、生活費や借入金返済に利用できるお金が1割以上減少していることを示しています。

(5) 今後の見通し

(3)で述べたように、国際情勢の不安定などを要因として、令和4年に

入ってから飼料費を始めとした生産費はさらに上昇を続け、令和4年の7月時点では、配合飼料価格はさらに15円/kg以上の値上がりを見えています。また、輸入粗飼料についても、為替相場の影響を中心に、さらに価格上昇しています。一方で令和3年中に発動した配合飼料安定基金の補填部分は段階的に圧縮されていくため、年末までの状況が続けば令和4年に関しては全国的にさらに厳しい決算状況になることが予測されます。

酪農業界は、現在非常に大きな危機的状況にあると言わざるを得ません。このような時期にこそ、それぞれの経営内容を再度見直し、今できること・工夫すべきことを取り入れた経営像を明確にし、それに向けて確実に取り組んでいくことが重要です。DMSシステム事業としてしましても、令和4年4月から新しい会計システムをユーザーの皆様にご利用頂いており、今後より詳細で正確な経営データを収集・分析することで皆様の経営のお役に立てる情報を発信していく所存です。今後も全酪連DMSシステムによる酪農経営サポートをどうぞよろしくお願い致します。

酪農部
発

全国農協乳業協会 「令和4年度製造実務者向けオンライン研修会」の 開催

酪農部が事務局を担っている全国農協乳業協会（会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、令和4年8月1日（月）に15事業者27名の参加をえて、製造実務者向けのオンライン研修会を開催いたしました。

本研修会は、製造現場の管理職、班長クラスを対象に、ANA ビジネスソリューション㈱の講師を招聘し、「ヒューマンエラー基礎コース」の内容をオンライン形式で開催いたしました。本研修会の開催は、本年度が初めてとなります。

研修では、「ヒューマンエラーをゼロにすることは不可能」としつつも、「エラー」の原因を理解し、その発生を防止する対策について学んでいきました。講義の中で、人間の視野の狭さや、錯視による見間違い、記憶違い等を、画像や個人ワークを通じて実感しました。また、航空業界に実際起こった事故事例の対策方法を具体的に話していただく中で、自社にも取り入れたいとの声も多く聞かれました。

参加者の中には、オンライン形式の研修に初めて参加する方もおり、発言のタイミングやグループワークでのやりとりなどに戸惑う姿も見えましたが、慣れない中でも真剣に学ぶ姿が多く見られました。グループワークでは、見積書の誤送信のケーススタディーについて、発生前にいくつかあったミスの要因について意見を出し合う中で、「他社の事例を聞くことで自社になかった視点に気づかされた」、「どの企業でも同じような事例で悩んでいることがわかった」等、会員企業間での刺激が得られた声も聞かれました。改めて、このような会員企業間の人のつながりを作れるのも、本協会の強みであると感じました。

これからも全国農協乳業協会は会員事業者の負託にこたえるべく、様々な情報の発信や研修会の開催など活動をしていきたいと考えております。

（なお、本研修は（一社）Jミルクの国産牛乳乳製品高付加価値化事業の助成を受けて開催しております。）
（A.Y）



▲ 受講風景（指を使って視野の確認を実施）

札幌
支所発初妊牛相場は低調、F1・和牛受精卵の増加も
「令和4年度 畜産主任者会議」

7月22日(金)本会札幌支所主催、令和4年度北海道・都府県畜産主任者会議を開催し、道内と都府県の乳牛購買の担当者他78名にご出席いただきました。本会議は過去2年間新型コロナウイルスの蔓延により不開催となっており、3年ぶりに全国各地の担当者が顔を合わせることができました。

畜産事業説明、基調講演(本会酪農部長 佐藤並びに本会総務部 酪農を支える人材育成課長 坂本)に続いて、搾乳用素牛導入事業に関する都府県の導入動向並びに道内の資源状況について各担当者より説明がありました。都府県側からは、「円安と資材価格高騰による経営状況の悪化に加え生産抑制など需給が緩和している現状、導入意欲は低下しつつある。加えて導入助成の減額や地域内流通事業の促進など、北海道からの搾乳用素牛導入が進み辛い状況である。一方で、畜産クラスター事業による規模拡大や新規就農により、価格が落ち着いているからこそ導入に積極的な生産者も見られる。今後とも良質な搾乳用素牛のご提供をお願いしたい。」との報告がありました。これに対して北海道からは、酪農情勢の悪化に伴い市

場価格は低調で推移している。現在のところ購入者様のニーズに合った素牛を十分に確保できる状況であるものの、経営環境が厳しい中収益確保のため今後はF1、和牛受精卵の割合が増加する見通し。との情報が提供されました。またその後の質疑応答では、生乳生産抑制への対応や資材高騰への対策についての質問があがり、環境の異なる北海道と都府県の情報交換の場となりました。

会員の皆様より多数のご出席をいただき、短い時間ではありましたが有意義な会議となりました。全酪連としても、このような機会を通じてご意見を頂戴しながら、今後も優良な搾乳後継牛の確保に努めてまいります。(T.H)



▲ 意見交換会の様子

東京
支所発

ミルクフェスティバル2022

6月4日(土)～5日(日)の2日間で千葉県印西市の千葉県立北総花の丘公園にて、『ミルクフェスティバル2022』(主催：千葉県牛乳普及協会・千葉県酪農農業協同組合連合会)が行われ、酪農業への理解向上と牛乳・乳製品の消費拡大のためのイベントが開催されました。

3年ぶりの開催となるため新型コロナウイルス感

染予防を徹底した中、牛乳の試飲や県内酪農家を作るジェラートの販売のほか、搾乳模擬体験、ポニーの乗馬、牛乳パックを使った工作体験など子供も楽しめるコーナーなど、牛乳を飲んで、食べて、学べるイベントが催され、開園前から大盛況＆長蛇の列と大勢の来場者が楽しまれておりました。(K.K)



▲ みんな仔牛に興味津々です



▲ 搾乳体験



▲ 牧草運び体験

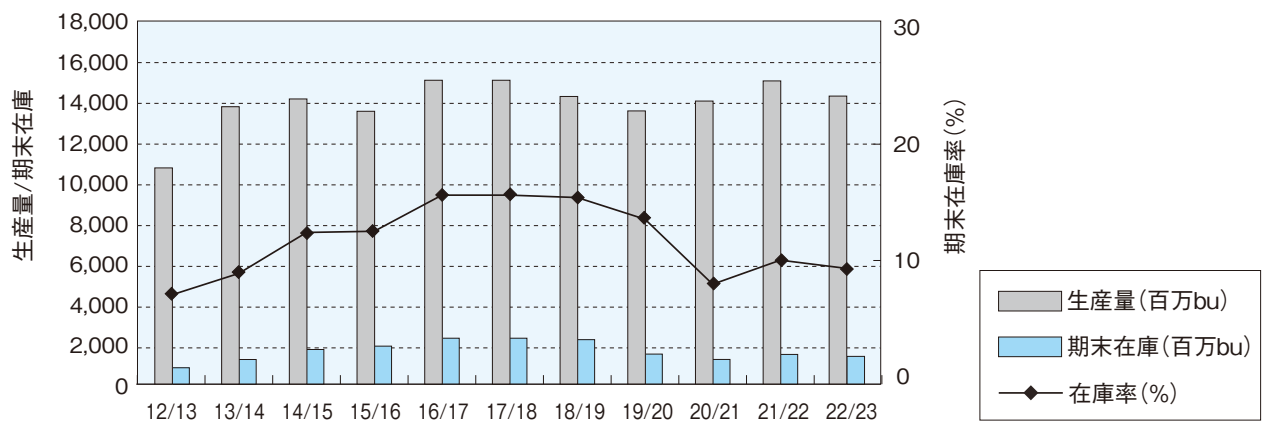


原料情勢

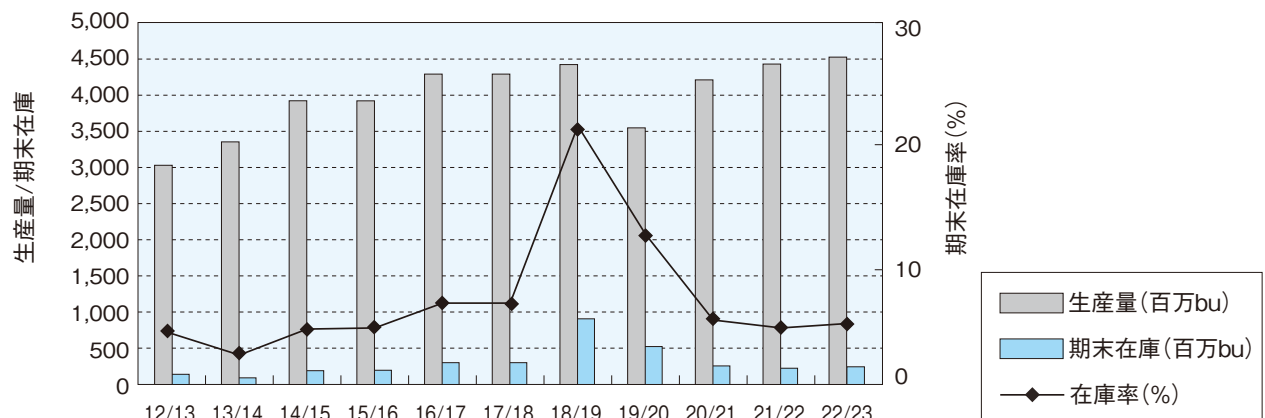
令和4年8月

8月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		21/22年産	22/23年産
	作付面積(百万エーカー)	93.4	89.8
	単 収(ブッシェル/エーカー)	177.0	175.4
	生 産 量(ブッシェル)	151億1,500万	143億5,900万
	需 要 量(ブッシェル)	148億4,500万	145億2,500万
	期末在庫(ブッシェル)	15億3,000万	13億8,800万
	在 庫 率	10.31%	9.56%
トウモロコシ 相場動向	8月米国トウモロコシは引き続き天候相場となっている。米国中西部では主要生産地であるイリノイ・アイオワ州等は豊作の見通しであるが、南部では高温乾燥の影響で単収も低いとの情報が出ている。今後は天候相場は終わりを迎え、需給環境にシカゴ相場は左右されるため、中国が新たにブラジルの買い付けを行っている中、世界的需給逼迫懸念があることから堅調に推移していく見込み。		
大豆粕相場動向	中国産は油需要に対し大豆粕需要が上回っている状況で、南米産は通貨安とインフレに伴う大豆生産者の売り渋りにより、輸入大豆粕の相場は堅調に推移している。国産は、一時下落傾向にあったシカゴ大豆相場が、受粉期の乾燥懸念より上昇傾向にあることや、円安基調が続いていることから強気の相場となっている。		
糟糖類	【一般フスマ】 小麦粉生産量は7月の値上改定にともなう先取り需要の反動と、パン等小麦粉製品が主に値上げの影響で販売が振るわないこと等から急速に落ち込んでいる。ふすまは7-9月期値上げの改定となったものの、配合飼料使用割合は減少しておらず、年末に向け非常に逼迫する見込みにあるため、より一層の供給制限が課される見通し。 【グルテンフィード】 国産は発生時期にあることや、価格は高止まりしているものの輸入品の在庫量も潤沢であるの見込まれているため、需給は緩和状況となっている。		
海上運賃	7月のフレート市況は、引き続き上値の重い展開となった。米国西海岸出しの穀物、東豪州出しの石炭需要が振るわず、また中国での景気減速から荷動きが低調な状態が続いている。中国がブラジル産とうもろこしを買い付けており今後、中国向けに輸出が開始されれば反発する可能性があるため注意したい。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



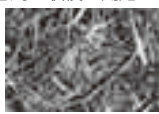
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和4年8月

北米コンテナ船情勢	西海岸港湾における使役者団体であるPMAと労働者組合ILWUとの労使交渉は、現在も続いています。7月末に医療給付の維持に関して暫定合意がされました。医療給付については重要な協議事項のひとつとされており、交渉は一歩前進した形になりますが、最大の争点と言われる「ターミナルの自動化」については、言及はない状況です。過去数年から続く海運の混乱が米国内のインフレの一因とされていることから、今回の労使交渉はバイデン政権も介入し交渉が進められています。8～9月中には新協約に妥結するのではと一部で期待されていますが、今後米国での年末商戦に向けた、輸入のピークシーズが始まるため、交渉の経過には注視が必要です。一方、西海岸全域ではコンテナターミナルから鉄道貨物の搬出が滞りはじめ、ピークシーズを前に港湾ターミナルの混雑が懸念され始めています。物価上昇に伴い、衣料品や家電、家具などの販売が鈍化し、各小売業者の内陸倉庫の在庫が過剰になっているという報道もあり、港湾内鉄道ターミナルでも内陸向けの鉄道貨物が通常時の3倍以上滞留し、鉄道への積み替えに通常以上の時間を要しています。港湾ターミナルの混雑はコンテナ本船の荷役作業効率の低下につながるため、早期の解消が望まれています。
ビートパルプ	【米国産】 主産地であるミシガン州では、順調に生育が進んでおり例年並みの収量が見込まれています。一方でその他の産地では、春先の冷涼な気候と断続的な降雨の影響で播種作業が遅れ、前年比5%程度、生産量が減少する見込みとなっています。22年産の収穫作業はスケジュールの早い地域で8月の中旬頃から開始される予定です。ロシアによるウクライナへの軍事侵襲以降、天然ガスの価格が上昇していることから、22年産は乾燥させる出荷が可能な内需向けのウェットパルプでの出荷割合が増加し、乾燥作業が必要なビートパルプペレットの生産量が工場によって減少する見込みです。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは現在2番刈の収穫作業が行われています。天候にも恵まれ順調に収穫作業は進んでおり、8月中旬には全域で2番刈の収穫を終える見込みです。これまで収穫された2番刈の品質は色目が良いものの、産地では夏季に入り気温が上昇し、成分値の低下や乾燥気味な品質が散見されています。産地では例年4番刈まで収穫されますが、22年産は1番刈の収穫作業が大幅に遅れたことで、3番刈で収穫を終える圃場が多く発生する可能性があります。このため輸出業者及び内需において年間の必要数量を確保するため、上級品を中心に引き続き積極的な買付が行われており、上級品の産地相場は1番刈以上に値上がりしており、引き続き高値となっています。 【オレゴン州】 オレゴン州南部クラマスフォールズでは1番刈の収穫作業が終了し、7月下旬から2番刈の収穫作業が開始されています。22年産の1番刈は例年よりもおよそ2週間遅い6月下旬から開始されました。作況については一部の地域で突発的な降雨があったため、雨当たり品も発生しましたが、主要な地域では収穫期に安定した天候が続いたため、例年同様、高品質な上級品が生産されています。同州中部クリスマスバレーにおいても1番刈の収穫が終了しています。収穫期に散発的に降雨があったため一部で雨当たり品が発生したものの、多くの圃場で降雨を避け収穫できたため、産地では上級品中心に生産されています。なお2番刈の収穫は8月上旬から開始される見込みです。産地相場は、ワシントン州の1番刈の作況が芳しくなかったことから、上級品を求める内需の引き合いが強く、他産地と同様に前年に比べ大きく上昇しています。  ▲ 22年産1番刈オレゴン産アルファルファ 7月下旬撮影
チモシー	【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在6番刈が収穫中です。産地では夏季に入り連日40℃を超える日が続き、成分値は下がっており中級品から下級品の発生となっています。産地相場は中級品以下の品質であっても、早魃の影響で粗飼料の不足するアリゾナなど隣接州からの購買もあり、引き続き堅調に推移しています。同州北部のディクソン地区では現在3番刈の収穫作業が終盤に差し掛かっています。産地は酪農地帯から地理的に近いこともあり、上級品中心に旺盛に売買されており春先以降、高値のまま相場は推移しています。農業用水の使用制限はディクソン地区でも行われており、例年であれば、産地一帯でカリフォルニア米を中心とする稲作の生産が見られますが、水不足から生産者は稲作の生産を諦め、休耕地となる圃場も散見されています。 【米国産】 主産地であるワシントン州コロンビアベースン及び、エレンズバーグでは1番刈の収穫作業が終了しています。22年産は冷涼な気候による生育の遅れと6月に入り降雨が続いたため、両産地ともに例年よりも収穫開始が遅れました。収穫期に安定した天候が続いたため、上級品中心の発生となり、中級品、低級品の発生は限定的となっています。産地では馬糧向けを主とする上級品が相場を牽引し、他の地域に比べ早魃状況は改善したものの中級品、下級品は粗飼料在庫が不足する内需が積極的に買付を行っています。22年産は前年同様、1番刈収穫後、換金性の優れる穀物及び豆類に転作した圃場が多く見られ、輸出業者によると1番刈収穫後に30%以上の圃場がチモシーから転作されている模様です。なお2番刈の収穫は8月上旬から開始される見込みです。 【カナダ産】 主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では、7月下旬から収穫が開始されました。7月に雹を含む雷雨が発生し、強風や雨により圃場での倒伏が散見されたものの、無事収穫されたものは、概ね問題ない品質となっています。22年産の収穫量は、生育期にたった適度な降雨の影響で例年と同程度か若干増加することが予想されています。同州南部レスブリッジ地区では6月に雨天が続き、1番刈の収穫は例年より1週間から10日程度遅い、7月中旬から収穫が開始されました。現在1番刈の収穫は終盤を迎えていますが、収穫期は天候に恵まれ、順調に収穫できたことから中級品から上級品が中心になると予想されています。
スーダングラス	カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては2番刈の収穫が開始されています。これまでに収穫されたスーダングラスは上級品及び中級品の発生が中心となりましたが、色抜け品の発生は例年よりも少ない印象です。現在産地では、連日40℃を超える高温に加え、モンスーンシーズンに入り湿度も発生しているため、茶葉の混入が目立ち始め、今後は中級品から下級品中心の発生になる見込みです。また、農業用水利用の制限により例年より2番刈を行う圃場が少なく、22年産の総生産量は昨年並みか若干減少することが予想されています。  ▲ 22年産スーダングラス 8月上旬撮影
クレイグラス	クレインは全酪連の登録商標です。 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、3番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては4番刈の収穫が開始されています。産地では連日40℃と高温が続くなか生育は加速し、茎質も堅くなりやすくなっています。また多少草質の硬さがあっても安価な蛋白源の繊維という位置づけで、草質の柔らかい上級品と変わらない価格帯で近隣酪農家向けに取引されていることから、生産者は例年よりも単収増加を意識し収穫しており、22年産は21年産に比べ全般的に硬さが見られる印象です。例年クレイグラスは5番刈から6番刈まで収穫されますが、各生産者、冬野菜の栽培に備え節水が必要となっているため、22年産は圃場によっては4番刈で生産を終える見込みとなっており、生産量不足が懸念となっています。
バミューダ	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーではバミューダヘイは3番刈の収穫が開始されています。直近の気温の上昇と湿度の発生により、品質は春先に比べ低下傾向にあります。一方で、早魃に直面するテキサス州からバミューダヘイに対する引き合いが非常に強く、産地ではクレイグラスよりも高値で取引されています。
ストロー類	主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、7月下旬よりペレニアルライグラスストローのベーリング作業が開始されています。大きな降雨もなく、品質は例年並みとなる見込みで、8月下旬頃から22年産の出荷が順次開始される予定です。
オーツヘイ	【豪州産】 7月は全豪的にまとまった降雨があり、22年産は順調に生育しています。7月上旬には東豪州ニューサウスウェールズ州で、およそ50万人に避難勧告が出されるほどの大規模な洪水が発生しました。また同時期に西豪州でも大雨と洪水が発生しましたが、この大雨による22年産の作況への影響はない見込みです。今後の豪州の天候は、収穫期に向け全豪的に降雨量の増加が予測されています。下図は豪州の気象庁による8月から10月の降水量予測ですが、西豪州の一部の地域を除き生産地域全体で平年以上の降水量になることが予想されています。  出典：The Australian Bureau of Meteorologyより
豪州コンテナ船情勢	7月上旬に東豪州と西豪州の各地であった大雨により、コンテナ本船の寄港が遅れ、スケジュールに遅延が発生しています。加えて豪州航路の船腹は満船が続いており、徐々に船腹の確保が難しい状況となっています。このため多くの船社で海上運賃の大幅な値上げを行っており、一部の輸出業者は今後、上昇した運賃の品代への転嫁を示唆しています。



日本酪農
政治連盟

酪政連活動報告

令和4年7月～8月

7/19 ┆ 7/20	輸入粗飼料の価格高騰に対する支援を含む緊急特別要請を行う。 (於 衆議院・参議院議員会館)	8/1	九州酪農政治連盟協議会が要請活動を実施。 (於 衆議院・参議院議員会館)
7/27	三役会 (於 酪農会館、全酪連役員会議室)	8/4	酪政連東北ブロック協議会が要請活動を実施。 (於 衆議院・参議院議員会館)
7/27 ┆ 7/29	北海道酪農協会が農水省牛乳乳製品課、飼料課等との意見交換会を実施する。 また、国会議員会館にて要請活動を実施。 (於 農林水産省、衆議院・参議院議員会館)		
8/8	佐藤委員長、坂本幹事長は農水省畜産局長を訪ね、さらなる酪農への対策支援を要請する。  ▲ 畜産局長への要請 その後は農水省牛乳乳製品課と対策支援について意見交換を実施する。 (於 農林水産省)		
8/9	正副委員長会議、その後は中央酪農会議との意見交換会。 (於 酪農会館、全酪連役員会議室) 中国地区酪農政治連盟協議会が要請活動を実施。 (於 衆議院・参議院議員会館)		

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	20~30	→	札幌管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で105.0%、累計で103.0%、苫小牧管内月計で99.0%、累計で97.7%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月下旬~12月分挽腹が中心となります。管内市場は、秋・冬分挽の牛も上場が始まっていますが、購買者が少ないこともあり弱含みで推移しております。庭先購買においては定期購買にて中クラス以上の出物があるため相場としては横這いに推移すると見込まれます。優良牛や高能力牛の多い地域でもあるため、上クラスの初妊牛を取りそろえることも可能です。また、和牛受精卵移植腹が軟調に推移しておりますので、価格が落ち着いているこの時期に導入をお勧めいたします。
	初妊牛	45~55	→	
	経産牛	22~32	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	22~32	⇐	根釧管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で99.0%、累計で100.0%、中標津管内月計で99.6%、累計で100.9%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月下旬~12月分挽腹となります。今後の荷動きは情勢の厳しさもあり、例年通りとまではいきませんが、猛暑の影響などで一定の更新需要はあると思われ、やや荷動きが活発になってくるものと見込まれます。相場は横這いと予想されますが、中クラス以上の初妊牛につきましては、やや強含みで推移するものと見込まれます。資源は豊富にございますので、導入希望ございましたらご連絡をお願いいたします。
	初妊牛	50~60	→	
	経産牛	28~35	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	25~35	→	帯広管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で101.4%、累計で102.3%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月下旬~12月分挽腹が中心となります。8月管内乳牛市場は、秋分挽が中心となり、道内需要も出てきていますが上場頭数が多かったこともあり、横這いとなっています。庭先購買に関しまして、同様に推移するものと見込まれます。腹別では、F1腹が雌雄選別腹より引き合いが強く、和牛受精卵移植腹については、資源も豊富なことからやや弱含みに推移するものと見込まれます。
	初妊牛	50~60	→	
	経産牛	25~35	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	22~32	⇐	道北管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で101.8%、累計で101.1%、北見管内月計で100.2%、累計で100.8%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月下旬~12月分挽腹となり、資源頭数は前年並みに推移すると見込まれます。お盆明けの需要もありますが、生産資材高騰等の影響からの買い控えもあり、相場は横這いで推移するものと見込まれます。経産牛につきましても同様の相場推移となると見込まれます。育成牛に関しましては、スモール価格下落の影響等もあり、やや弱含みに推移するものと見込まれます。
	初妊牛	45~55	→	
	経産牛	25~35	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	22~32	⇐	道内の8月中旬までの生乳生産量前年比は100.6%、累計で101.2%の実績となっております。道内では、天候不順による1番草の刈遅れが発生したため、品質の低下と2番草の収量減が心配される状況です。9月の初妊牛動向といたしましては、11月下旬分挽腹以降の秋分挽中心となります。秋に向けて、導入意欲は徐々に上がってくるものと思われ、資源も豊富なため大きな相場変動は無いものと予想され、横這いに推移するものと見込まれます。初生牛相場の下落も目立つようになり、乳牛全体の動きは非常に鈍い状況となっています。現段階については年内分挽需要がどこまで増えるかにもよりますが、導入し易い価格帯となっております。今後の相場に注視しながら相場の情報発信をしていきますので、導入に関するお問い合わせや導入を予定されている方は、ぜひ、早めにご連絡ご注文を宜しくお願いいたします。
	初妊牛	47~57	→	
	経産牛	25~35	→	

今月の表紙

今月の表紙は「第12回 酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「おいしい牛乳をありがとう」(埼玉県 関和大樹氏 撮影)です。



編集後記

- 猛暑と長雨の連続で鬱陶しい日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか? 自然災害により、被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。夏の疲れが出ている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。冷たい物の食べすぎ飲みすぎで胃腸も疲れていることでしょうか。一度リセットし、来たる食欲の秋にしっかり備えていきましょう。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和4年9月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 9月号 No.684

● 編集・発行人 工藤文彦
● 発行 全国酪農業協同組合連合会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介



うしさん

下関市立豊北こども園 4歳（西日本） 林 映里

今月の入賞作品は…

下関市立豊北こども園 4歳（西日本）の林映里さんの作品です。

画面をいっぱいに使って、牛さんの顔を描いたインパクトのある力強い作品です。迷いのない素早い筆運びからはスピード感が伝わってきます。指に絵の具をつけて描いた草の表現から描くことの楽しさが伝わってきます。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第48回らくのうこどもギャラリー」で全国205点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議